

「瓦礫」のトリック・・・その危険性とトリックを正しく知ろう

中部大学・武田邦彦教授

震災瓦礫の問題を「日本の大変大きな問題」としてとらえ、これを国民としての誠意をもって整理をしてみます。数字は丸めてありますが、正確ですから、まずは問題の本質を良く理解するところから始めたいと思います。本当は政府や自治体が出すべき数値ですが、なかなか出さないで私の方から説明します。

1. 瓦礫の量は阪神淡路大震災と大きく違うのか？

阪神淡路大震災の時の瓦礫の量は 2000 万トン、東日本大震災 2300 万トン（環境相発表）で、わずかに東日本大震災の方が多いが、地域が広いことを考えるとほぼ同じか、むしろ東日本の方が面積あたりにすると少ない。

2. 瓦礫全体の内、どのぐらいを被災地の外で処理するのか？

瓦礫総量の内、わずか 20%の約 400 万トンを東京やその他の地域で処理する。80%が現地処理。

3. 瓦礫の処理が遅れている理由は何か？

「瓦礫の処理が 5%しか進んでいない。これは瓦礫の引き受けが進んでいないから」と 2 月 21 日に発表した。しかし、もともと被災地外で処理するのはたったの 20%だから、被災地外の引き受けが順調で、もし半分が引き受けても 10%の処理率になるに過ぎない。つまり、環境省はこれまでと同じように瓦礫の処理が遅れている理由を、国民が誤解するように発表し、専門家と言われる人はこの辺の事情を十分に知っているのに言わない。新聞も同じである。

さらに NHK は 2 月末の放送で「瓦礫を不当投棄するので、瓦礫処理が進まない」という自治体の言い分をそのまま放送した。山のように積んである震災瓦礫の数は 100 分の 1 しかないのに、それがあたかも瓦礫の処理が遅れている理由にしている。またさらにそれを知っている NHK が自治体の言い分だけを放送するというのだから、国民が税金や受信料を支払っていることを忘れておられるとしか思えないのは当然だろう。

4. 処理価格のトリック

阪神淡路大震災の時の瓦礫の処理費用は 2 万 2 千円（トンあたり）、それに対して岩手の瓦礫の処理費用（税金）は 6 万 3 千円、宮城 5 万円。なぜ、阪神淡路大震災の時と比べて物価はやや安くなっているのに、処理費が 3 倍近いのかについても説明はなされていない。

自治体は政府の圧力とお金の魅力で汚染を引き受けているのではないか。この処理費用のクラクリを市民に言わずに「被災地を助ける」ということしか言わない。

5. 被災地には本格的な瓦礫処理施設を作らない

ある宮城県自治体が仮説焼却施設を作ったと報道された。その能力を計算してみると実に小さい（このような細かいことはまた機会があったら書くようにしたいが本筋が大切なのであまり細かい数字は割愛する）。

つまり、確かに「見かけ」は「焼却施設を作った」と言うけれど、名古屋市にいくつかある焼却施設のどれにも該当しないような小さな焼却施設だ。でも素人を騙すことはできる。「被災地にも焼却施設を作っている。武田はウソを言ってる」などと言う人もいるが、私を批判する専門家なら焼却能力のバラつきを判って言っているはずである。

6. 汚染の可能性

放射能の量としては、1キログラム8000ベクレルが基準値なので、2300万トンでは拡散量は約200兆ベクレルになり、日本人ひとりあたり150万ベクレルに相当する。これは1キログラム40ベクレルというまともな食材汚染の限界から言うと一人あたり37年間、汚染された食事をすることを意味する。

また山形と東京が瓦礫を引き受けているが、かりに山形市が半分を引き受けたら、お金はかなり来るだろうが、その代わり山形市の汚染は1平方メートルあたり24万ベクレルと規制値の6倍、警戒領域の60倍にも達する。

このような計算をすると、「山形だけが瓦礫全体の半分を引き受けるワケではない」などという反論がでるし、それを承知でここで示している。もし、数値を問題にするなら、自治体自体が「何トン受け入れて、それによって放射線量は何倍になるのか？」を言わなければならない。民主主義だから「瓦礫を引き受けたら放射線量は何倍になり、付近の人はどのぐらい被曝するか」という数値を出すのが第一である。

まだ瓦礫処理にはトリックがあるけれど、たった20%しか被災地以外で処理せず、放射性物質は拡散します。でも、誰が考えても不合理なことをしていますし、それに「どのぐらい被曝するか」、「どのぐらいお金が入るか」、「1円当たり何ベクレルか」などすべてを透明にすることが必要です。

都知事の「黙れ！」に賛成する人は民主主義をよしとしていないのですから、お殿様のいる別の世界にお住みになったら良いのではないかと思います。人間は無意味なことはやりませんので、これほど無意味なことが行われるということは「裏がある」ということです。それがハッキリ判るように報道して、多くの人が判断できるようにするのが民主主義と言うものです。

もう一つ、瓦礫の問題で私に対する「人格攻撃」が盛んですが、これは私にとっては一つの「楽しみ」でもあります。つまり、事実を言えば相手が納得するなら、別に人格攻撃は不要です。ところが、「武田は事実を調べずに言う」（そんなことを言わずに、その人は淡々と事実を述べれば良い）、「武田大先生の信者」（そんなことを言うなら、瓦礫の説明をした方が早い）などがあります。

人格攻撃をするのは、事実や論理では勝てない（ウソを言う）からで、最後の手段が人格攻撃です。ですから、私は人格攻撃があると「おっ！相手も追い詰められているな」という証拠になるので、ニヤッとしてしまいます。

（平成24年2月28日）